

国大図協第 22-60 号
平成 22 年 11 月 8 日

関係各位

情報・システム研究機構
国立情報学研究所長
坂内 正夫
国立大学図書館協会 会長
古田 元夫

シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」
の開催について（通知）

時下ますますご清祥のことお慶び申し上げます。

国立情報学研究所および大学図書館では、平成 17 年度以来、機関リポジトリの構築による教育研究成果のオープンアクセス化に努めてまいりました。その結果、現在日本で機関リポジトリを持つ機関は 180 を超えるなど、一定の成果を収めています。また、SPARC Japan の取組みなどにより、オープンアクセスジャーナルへの関心も高まりつつあります。

一方、第 4 期科学技術基本計画の策定に向けて、「科学技術基本政策策定の基本方針」（総合科学技術会議・平成 22 年 6 月 16 日）には、機関リポジトリの充実や研究成果へのアクセスの容易化、学術情報のデジタル化やオープンアクセスの推進等が盛り込まれ、これらの施策は政策的にも重要な位置を占めつつあります。

このように、研究成果の効果的発信が急務となっていることを受け、私共は、シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」を下記により開催することといたしました。

今回のシンポジウムでは、世界に先駆けて、研究者自らの発案で研究成果のオープンアクセス方針を決定したハーバード大学を始め、国内外の最新の事例をご報告いただきます。研究成果の公開促進の意義と課題について議論する場といたしたく、関係者各位にはぜひご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日時：平成 22 年 12 月 10 日（金）10:00～17:00
場所：東京大学鉄門記念講堂（東京都文京区本郷 7-3-1 医学部教育研究棟 14 階）
http://www.kinesiotaping.jp/about/map/rinpatsu_map.pdf
参加：参加費無料、定員 280 名、申込 Web フォームをご利用ください
<http://www.nii.ac.jp/sparc/>
詳細：別紙プログラムをご参照ください

<p>【本件に関する問い合わせ先】 国立情報研究所 学術コンテンツ課 図書館連携チーム Tel:03-4212-2302, 2361 E-mail: co_sparc_all@nii.ac.jp</p>

国立情報学研究所 国立大学図書館協会 共催

シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」
プログラム

日 時： 平成 22 年 12 月 10 日（金） 10：00～17：00

会 場： 東京大学鉄門記念講堂（文京区本郷 7-3-1 医学部教育研究棟 14 階）

総合司会： 大場 高志（一橋大学学術・図書部長）

9：30～10：00 受付

10：00～10：20

前提となる基礎知識，状況認識共有のためのレクチャー（仮）

尾城 孝一（東京大学附属図書館情報管理課長）

10：20～12：00

講演 1 「ハーバード大学のオープンアクセス方針について」（仮）

スチュアート・シーバー（ハーバード大学，Welch Professor of Computer Science, Director, Office for Scholarly Communication）

（昼休憩）

13：30～14：30

講演 2 「英国のオープンアクセス方針策定事例」（仮）

アンドリュー・A・アダムス（明治大学大学院経営学研究科特任教授）

14：30～15：00

講演 3 「北海道大学の機関リポジトリの状況について」

山本 和雄（北海道大学附属図書館学術システム課長）

15：00～15：30

講演 4 「海外におけるオープンアクセス化に関する政策論議の展開（米国を中心に）」

遠藤 悟（東京工業大学大学マネジメントセンター教授）

（休憩）

15：50～17：00

パネルディスカッション

司会：

安達 淳（国立情報学研究所学術基盤推進部長・教授）

パネリスト：

スチュアート・シーバー，アンドリュー・A・アダムス

山本 和雄，遠藤 悟，加藤 憲二（静岡大学附属図書館長）

※講演 1，2，パネルディスカッションは通訳付きです。